

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者:山本孝史

作成日:平成29年4月27日

サンプル数(評価数値の分布合計):7

(1). 教育理念・目標

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②学校における職業教育の特色は明確になっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 5 | 0 | 0 |
| ⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 4 | 0 | 0 |

(1)課題

全体として「適切、ほぼ適切」と評価がされている。

昨年度の自己点検と比較し④「学校の理念・目的、育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか」及び⑤「各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」について、「ほぼ適切」が増加した。昨年度、入学した学生に対する職員側の理解度、浸透度により周知不足が発生していることが考えられたため、これらを改善するために責任者による理解度の確認を実施したが、今年度も引き続き確認を進めなければならない。

業界のニーズや社会変化に対応したカリキュラムとして学園が独自に開発した職場の基礎力を身に付けるカリキュラムを実施しているが、職場で必要となる能力は変化をしているため、将来構想の変化にも積極的に取り組み、それらの取り組みを保護者等に周知される手段についてさらなる改善を行うことが課題である。

(2)今後の改善方策

学園の理念、目的、育成人材及び各学科の教育目標、業界のニーズに向けて、実施されている職場の基礎力カリキュラムを学生及び保護者の方に正しく説明するために、引き続き教職員研修会を実施し、さらに取り組み方や説明に差が出ないようにマニュアル化を図っていく。

保護者に対して教育の内容の理解と浸透を図るために、入学前に実施される学校説明会・保護者説明会において学園が取り組む教育内容や業界のニーズを取り入れたカリキュラムについて説明を実施し、入学後の周知を図るために、教育内容や取り組み状況を定期的に郵送する成績通知書に同封し理解を深めてきたが、保護者との通信端末を使った情報交換が機能していなかったため、今年度は通信端末を使った連携に努めていきたい。

(3) 特記事項

津校は平成26年4月に教育基本法に則り、学校教育法に従い、「人格教育による独立心の養成と国家や社会の一員としての形成者の養成」を目的として開校された。それらの目的は受験指導や就職指導を通じて達成を目指すと共に、地域と密着し県内の若年層を中心に、様々な年齢層の方に教育の機会を設け「専門能力」を身につけた人材の育成により社会貢献を果たすことを目的としている。

名古屋大原学園では年度単位の学園学校運営計画書を策定しており、その中で学園全体の教育目標として

①早期大人化教育:精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成、

②学科の専門教育:資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成

を掲げている。この教職員・学生・クラスの3者の能力を工夫活用し、健全な国民としての学生を育てることを教育方針として定めている。

全教職員は当該計画書を所持しており、毎月実施する教職員全体朝礼において教育目標の確認、および計画項目の進行状況を確認している。これにより教育目標・教育理念の教職員への浸透を図っている。なお、本計画書は学園長・理事長・校長により毎年見直しが行われ、3月期に名古屋大原学園全職員が集い、教育目標・教育理念を確認している。

また、学生に対しては校長等の講話や毎日のホームルームを活用した教員による啓蒙により、学園が目指す教育目標への理解を図っている。

社会及び業界のニーズは急速に変化を続けているため、それらに対応したカリキュラムが実施されている。具体的にはグローバル化に対応した海外行動力、コミュニケーション不足に対応した協調行動力、IT化に対応したIT活用力、目標達成を実現する自己管理力の4つに定め、平成26年度より独自に開発したカリキュラムを実施することにより、職場の基礎力の向上を図っている。

(2). 学校運営

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①目的等に沿った運営方針が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ④人事、給与に関する規程等は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |
| ⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体としては「適正・ほぼ適正」と評価がされている。

昨年度の自己点検と比較し⑥「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」について「ほぼ適正」の評価が増えている。学生数の増加に伴い、顕著化された問題に対してのことでありと考えられる。また、⑧「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について、学生管理や学内業務で情報システム化の変更を平成27年度より進めているが、平成29年度より本格稼働することにより、重複業務の効率化を進めることが課題となる。

(2) 今後の改善方策

⑥については、学生に対し法令を遵守し、倫理観や品格の向上に向けて、学期毎に実施される全体会議や日々のミーティングにより責任者が教員に対して啓蒙を行う。また、学校近郊の企業や住民の方に対しては引き続き、迅速かつ配慮ある行動を行っていく。

⑧については、平成29年度に学生管理システムの変更が行われる予定である。教員への研修を実施し、円滑に導入させ、業務効率化を進める。また、昨年に引き続き、多くの個人情報を取り扱うため、学園が定める個人情報保護規則の確認を行い、コンプライアンスの体制の強化に努める。

(3) 特記事項

学園学校運営計画書において事業計画が年度単位で策定され、同計画書において学校の運営方針、組織図、担当業務、教職員の留意事項が明示され、毎年3月に行われる職員全体会議において、全職員に対して事業計画等の説明がされている。また、部署及び個人の月次の業務計画が策定され、学園組織図と共に計画責任者も明示されているため指示命令も明らかにされている。

学園理事会・評議員会とも適時適切に開催され、議事録は適切に作成管理されている。教職員に対し、必要な規則に関しては諸規則集が設けられ、関係法令の改正に伴い適宜改正を行っている。

教育活動等に関する内容については学校総合案内書、学校ホームページにて地域、入学希望者、保護者、卒業生に公開されているが、今後は一層の情報公開を積極的に行う。

学生管理(成績管理、出欠管理など)や財務経理等の学内業務はコンピュータ化が進んでおり、効率的な業務遂行ができるよう工夫されている。

(3). 教育活動

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 4 | 0 | 0 |
| ⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 1 | 4 | 0 |
| ⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 2 | 3 | 0 |
| ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 2 | 3 | 0 |
| ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |
| ⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 4 | 0 | 0 |
| ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 1 | 6 | 0 | 0 |
| ⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体としては「適正・ほぼ適正」と評価がされている。

⑦「授業評価の実施・評価体制はあるか」については、授業聴講、授業評価を実施したことにより改善がされた。

⑬「関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか」については、関連分野や高等学校教員との指導力向上に関する研修が実施されているが、関連分野との取り組みを増やし研究を進めたとの意見により「ほぼ適切」が多くなっている。

昨年度の自己点検と同じく、下記の項目につき「やや不適切」との評価が多くなっている。

⑤「関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか」、⑥「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）の体系的な位置づけられているか」、⑧「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。」

⑤、⑥の関連分野の企業・業界団体等の外部関係者との連携及び職業教育については、提言を受けた意見について柔軟性を持って対応してきたが、外部関係者との連携やインターンシップ先の開拓を更に充実させることが課題となる。

⑧については、外部関係者の方の評価を取り入れ、改善点や先端的な情報をカリキュラムに反映させる体制作りが課題となる。

(2) 今後の改善方策

今年度において、関連分野の企業や業界団体等との連携によるカリキュラムの作成・見直し等を行い、実践的なカリキュラムの準備に取り組めてきたが、次年度においては、更に教職員の職務能力の向上を図るために、外部企業と連携し実務知識、技術力を向上させる研修への積極参加を推進していく。

三重県の特徴として、学生の住居によってはインターンシップの受け入れ先が少ない地域があるため、医療事務科やインターンシップに代替する関連業界でアルバイト実習を行っているホテル・ウェディング科は幅広い地域での受入先の開拓を継続して行う必要がある。さらに、税理士・企業会計科はインターンシップの実施時期や様々な業種・業界を選択できる受け入れ先の開拓を行い、職業体験の充実を図る。

授業評価の実施については、授業聴講の実施・評価・フィードバックを昨年度に引き続き継続して行う。また、外部受託授業が増加しているため、それらの講義前に多くの教員による聴講を行い、一定の授業水準であるかの検証を行う。また、引き続きタブレット型情報端末の活用を行い、学生の自宅学習管理方法やプレゼンテーション技法についての研修によりスキルアップを図り、より社会の変化に対応した内容に授業を進めていく。

(3) 特記事項

教育理念、教育目標である「早期大人化教育：精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成」、「学科の専門教育：資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成」に基づいた教育課程の編成が行われている。これらの教育目標を明確にするために、学生手帳(大原トライアングル手帳)に以下の四つの目的を示している。

- ①入社2年目レベルの「職場の専門能力と基礎能力」
- ②入社2年目レベルの「職場の協調行動力」
- ③憧れの業界人や公務員を目指すための「4段階の就職活動」
- ④本気モードで楽しむ「キャンパスライフ」

これらの入学目的を達成するために、学生手帳を使用し自己管理の実践を指導している。これらの指導が適切に行われているか、校長等による点検が実施されている。

学則に規定された就業年数、授業時間数に従い、学生に配布している「学生便欄」に進級・卒業基準明示し、厳密に進級、卒業を審査判定している。

全教室にプロジェクターを設置し、パワーポイント等による授業を展開し授業時間効率化や合格率向上を図っている。全学生に対してタブレット端末を配付し、授業内における資格取得や就職対策への活用を推進するとともに、自己学習を可能とするツール開発が図られている。

(4). 学修成果

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---------------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①就職率の向上が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ②資格取得率の向上が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ③退学率の低減が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 4 | 0 | 0 |
| ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体的として「適切、ほぼ適切」であると評価がされている。

昨年度の自己点検では、④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、⑤「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」については、やや評価が低くなっていたが、今年度においても「ほぼ適切」に留まっている。卒業後のキャリア形成について一部の学生が対象となり、全体を把握できなかったことによるものと考えられる。よって、全体を対象とした聞き取りや内容の集約が課題である。

③退学率の低減が図られているので、「やや不適切」との評価があったが、「ほぼ適正」まで改善された。退学率の改善については、クラス担任制を活かし、細やかな対応により行っているが、保護者との連携が体系的に行われていないため、家庭での理解や協力が得られるようにすることが課題である。

(2) 今後の改善方策

卒業後の状況は、昨年度に引き続き就職後6カ月を目処に卒業生に対して、担当教員が聞き取り調査を実施する予定であるが、連絡が取れなかった際の対処方法及び聞き取れた意見の集約を行い情報共有できるようにする。卒業後の活躍状況や評価は、就職サポート室担当者による企業訪問により聞き取り調査が実施される予定であったが、全体を対象として行われていないため、担当者と連携を取り、確実に情報取得し就職教育にフィードバックしていきたい。また、仕事内容の把握や研究ができるように卒業生による講演を回数を増加させていく。

学業成績の不振や人間関係を上手く構築できないのは、入学前の状況に問題がある場合が多いため、早期に原因把握をするためには本人との面談だけでなく、保護者と情報交換を積極的に行う。昨年より電話連絡や希望する方にはメール機能により退学防止に努めているが、浸透力が弱いため次年度は強化していきたい。

(3) 特記事項

就職指導では、就職サポート室と連携を取りながらクラス担任が中心となり全教員体制による指導が実施されている。具体的には一人の教員が数名の学生を担当する体制を取っている。職業人意識の向上、自己PR・志望動機等の具体的な指導、就職受験スケジュールに至る就職活動全般を指導し就職率の向上を図っている。また、全ての学科において名古屋大原学園卒業生による就職講演を実施しており、卒業生も増えてきたことからそれらの回数を増加させていく予定である。

資格取得については、学生手帳による自己管理や長年に渡り培った合格ノウハウに、クラス担任が信頼関係を構築し面談を行うことでモチベーションの維持を図っている。それにより日商簿記1級、全経簿記上級、診療報酬請求事務等、難易度の高い試験でも成果を上げている。

退学率については、低く推移している。教職員が学生個々の状況を把握し面談を行う体制を整えている。また、様々な問題を未然に防ぐために保護者との連携も深め、必要に応じて面談の実施も行っている。また、経済的理由による中途退学者がでないための支援策として行われている学費分納制度も徐々に利用者が増加し、退学者防止に効果を上げている。

(6). 教育環境

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 3 | 2 | 0 |
| ③防災に対する体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 4 | 0 | 0 |

(1)課題

全体としては「適切、ほぼ適切」と評価がされているが、昨年度の自己点検に同様と②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について「やや不適切」の評価がされている。インターンシップについては、受け入れ先の開拓を継続して進め充実を図ることが課題である。

③防災に対する体制の整備については、地震時の基本対応マニュアルは作成されているものの、各種防災対策（避難訓練、水、食料の備蓄）への継続的取り組みが課題となっている。

(2)今後の改善方策

インターンシップについては、地域性や実施時期を考慮し学生の満足に繋がる実習先、受入先企業の開拓を継続して行う。

海外研修については学園が支援する「オーバーシーズプログラム」の積極的に利用を促していく。海外研修へのインセンティブとして、海外での行動力を養う講座の実施、授業内における関連英語の紹介、教材の一部には基本英会話や中国語・韓国語の簡単な会話用語の掲載されている。それらの学習と海外研修への参加により、グローバル化に向けての学生の意識改革に取り組む。

防災対策については、本年も教員が地域の東海・東南海地震を想定した防災訓練に参加し、作成された防災マップや訓練内容を職員研修で報告を行った。しかし、学園全体による避難訓練の実施が行われなかったため次年度

(3)特記事項

専修学校設置基準に照らして講義室、実習室とも十分な面積と必要数を満たしている。各階にあるロビーも一定の広さがあり、椅子とテーブルを設置し当該場所での学習も可能であり、学生が学習する環境は整えられている。

また、実習設備として「PC実習室」「医療実習室」「医療受付実習室」「バンケットルーム」「チャペル」「ドレス実習室」等、各学科の特性に応じた実践的な実習室を設け、必要に応じた教育用機器備品を揃えている。ホテル・ウェディング科の講義室及び医療実習室は「電子黒板」を設置している。

パワーポイントを活用した授業やタブレット端末を活用したプレゼンテーション能力の向上を図る視覚的な授業では、投影する機材が不可欠であるため、全ての教室にはプロジェクターを設置している。

保健室は整備されており、一定の医薬品は常備している。図書室は独立した部屋は整備されていないが、ロビーに図書コーナーを設け、学生が自由に情報を収集できる環境を整備している。教員室と事務室については共通の部屋を使用しているが、個人情報保護の観点から関係者以外の入室はともにも一定の手続きを取らないと入室できないように管理している。

インターンシップは、医療事務科では病院実習が行われ、ホテル・ウェディング科、税理士・企業会計科では関連する業界での学外実習の斡旋を行い実施している。

海外研修は海外研修支援制度（オーバーシーズプログラム）があり、積極的な参加を促していく。

(7). 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①学生募集活動は、適正に行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ③学納金は妥当なものとなっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |

(1)課題

全体としては「適切」または「ほぼ適切」と評価がされている。

②「学生募集において、教育成果は正確に伝えられているか」について前年度と比較し「ほぼ適切」が増えている。教育成果を伝えるために高校訪問の回数を増やしてきたが、タイムリーな情報とならないケースがあったことによるものである。また、前年度と同様に高等学校、大学・短大等の既卒者、キャリアアップによる転職者等への認知度も低い現状であるため、さらなる認知度の向上が課題となっている。

(2)今後の改善方策

津校に設置されている学科や教育内容が高校生に認知されていないため高校訪問を実施し、高等学校の教員の方々への認知度を上げてきたが、訪問者が伝える情報量に不足が発生しないように事前研修会を実施し、プレゼンテーション能力の平準化を図る。

資格合格実績や就職実績、学内外の研修についてスピーディーにホームページやSNSを活用し伝えていく。また、引き続き大学・短大の卒業生・大学退学者等の既卒者、転職者を受け入れる研究をすすめる募集を強化する。

津校の特色である教育成果について、在校生や卒業生から高校生等もたらされることが多いため、資格、就職実績により在校生の満足度の向上に努める。

(3)特記事項

学校の基本情報、学科ごとのカリキュラム、資格合格実績、就職実績、学内イベントなどの情報並びに学校説明会や体験入学会の開催日程を掲載が学生募集のための総合案内書は毎年作成されている。また、学費や入学手続き方法を明記した募集要項も同封されている。入学者の選考については、出願後に書類選考及び面接を実施している。

学校説明会や体験入学においては、総合案内書を使用し教職員及び在学生により学校基本情報、各学科の将来イメージ、教育成果が伝えられている。また、保護者説明会においては校長が個別に保護者に対応し教育内容、教育成果を伝えている。

学納金については、入学金・授業料・維持費・研修教材費で構成されている。経済的支援策として学費の一部を減免する奨学生制度や分納制度を整備している。特に学費の分納制度は利用者が増加傾向となっている。

(8). 財務

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ③財務について会計監査が適切に行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ④財務情報公開の体制整備はできているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

昨年度の自己点検と同様に、全体として「適切」「ほぼ適切」と評価がされている。

(2)今後の改善方策

専門課程入学者は、定員までは達していない状況である。よって、募集増加を図るため体験入学・説明会、高校訪問、情報発信、校内美化を組織化し職員全員体制による募集活動を継続する。

専門課程が使用しない時間を利用した附帯教育の認知度が上がってこないため大学等を含めた広報活動を強化する必要がある。

(3)特記事項

財務については、入学後に寄付金や学債をお願いすることは一切なく、学園は借入金のない健全な財務状態となっている。

理事会・評議員会において、予算・収支計画の立案及び承認が適切に行われ、財務に関する会計監査及び税務監査については外部の公認会計士事務所及び税理士事務所に依頼し適切に行われている。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、利害関係人が財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書の閲覧が出来るように、情報公開の場を設けている。

(9). 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ④自己評価結果を公開しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体として「適切、ほぼ適切」と評価がされた。

③「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」が「ほぼ適切」が半数あり、前年と同様の結果となっている。前年の自己点検において上げた問題点のうち、今年度において実施、改善が進まない項目があったことにより評価されたものである。次年度においては、問題点を確実に改善するように努める。

(2)今後の改善方策

法令、専修学校設置基準に基づき法令遵守に努める。また、学園が定めた「個人情報保護法規則」を教職員が遵守するように研修、啓蒙を今年度も継続する。

自己点検・自己評価は年度末の3月に実施し、評価結果に基づき改善を行うとともに、学園外部に対しては、自己点検評価結果を学園ホームページで公開する。

(3)特記事項

学園は教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、①人格教育による独立心の養成及び②国家や社会の一員としての形成者意識の養成を二つの目的として定めている。よって、それらの目的の達成は、法令の遵守をすることが前提となる。

教職員、施設、校具及び教具、学級編成は専修学校設置基準を遵守した内容になっており、学則に定められた教育課程及び単位時間数により運営を実施している。

学園では多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく個人情報保護規則を整備し適正に取り扱っている。また、コンプライアンスには今後も一層の注意を図っていく。

自己点検・自己評価を実施し、改善が必要な項目については対策を講じていく。教育活動及び学校自己点検評価は学校ホームページにて公開し情報公開に努めていく。

(10). 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 3 | 1 | 0 |
| ③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体としては「適正・ほぼ適正」と評価がされている。

昨年度の自己点検では、①「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」については、「ほぼ適切」の評価であったが、今年度は「適切」となった。ビジネスマナー講習や簿記講習を実施し、津駅前での利便性を活かし各種試験会場や研修会場として学校施設の活用を行い、さらに、地域住民の方に積極的に利用して頂いたことにより改善が進んだと考えられる。

②「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」については「やや不適切」の評価がある。ボランティア要請があった場合に情報提供を行い、今年度において一部の学生が参加を行った。次年度はさらに参加学生を増やために、年間を通してボランティアに参加できるように情報収集することが課題となる。

(2) 今後の改善方策

社会貢献・地域貢献として、地元自治体への学校施設の活用を積極的に行い、防災訓練及び災害時における研修会場としての貸し出しや子供会の研修等にも貸出を行った。さらに敬老会や各種勉強会への貸し出しも積極的に行い、地域貢献を行う予定である。

ボランティア活動については、地域ボランティアに関する依頼が学生の参加を機に増えつつあるため、学生への情報提供を行うと共に、一層の参加を促していく。

(3) 特記事項

学校施設を活用して、高等学校からの依頼による簿記講習会や教職員が高等学校に出向き、ビジネスマナー講習、簿記講習会を実施している。

地域貢献・社会貢献として、社会人や大学生の方に対し、専門課程が使用しない時間を利用した附帯教育を実施しており、資格取得等のスキルアップを図るサポートしている。

地域ボランティアに積極的に参加したことにより、地域より表彰状を授与される。次年度においてもボランティア参加を継続し、地域貢献を行っていく。

(11). 国際交流

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--------------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 5 | 0 | 0 |
| ②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ④学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 1 | 6 | 0 | 0 |

①課題

外国人留学生向けの募集要項を毎年制作し配布しているが、入学者数は僅かである。これは国家資格の受験対策には高度な日本語読み書き能力が必要であり、片言の日本語会話ができる程度では授業内容が理解できないためである。日本の滞在ビザ取得を目的とした入学問い合わせは多数あるが、実際の授業内容を説明するとほとんどのケースで入学には至らない。

国際化が進む現在、学内に多数の留学生が在籍するキャンパスは日本人学生にとっては刺激を受ける好環境になりそうである。ただ学習には高度な日本語能力が必要になるため、実際の留学生入学者は少ない状況にある。

学校ホームページを通して資格合格状況、合格率、就職内定状況、内定率などを詳しく公開しているが、すべて日本語表記であり、国外に対する情報発信は行っていない。従って国外で評価される仕組みは現状では無い。

②今後の改善方策

外国人留学生を安易に大量入学させる方針ではないので、当面この状況は変わらない。

③特記事項

外国人留学生の入学に際しては必要書類(母国最終学校の成績証明書、日本語学校の成績証明書、在留カードなど)を厳重に確認し、入学後においては入国管理局等関係当局への定期報告を適切に行っている。

海外研修旅行を充実させる計画は進行中である。そのためにマルチリンガル能力、海外行動能力を高めるカリキュラムを実践している。学校としては卒業後は海外出張や海外赴任を難なくこなせる国際人育成を目指している。

(5). 学生支援

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |
| ②学生相談に関する体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |
| ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |
| ⑥学生の生活環境への支援は行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |
| ⑦保護者と適切に連携しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ⑧卒業生への支援体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 0 | 0 |
| ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 1 | 0 | 0 |
| ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 0 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体としては「適切、ほぼ適切」と評価がされている。

④「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」について昨年度において解消されるつつあるとの評価を行い、また、今年度においてメンタルヘルスに関する知識習得も実施された。しかし、それらの知識を精神的に悩みのある学生との面談等実際現場で、活かしたカウンセリングができるが課題である。

前年の自己点検において⑦「保護者との連携について」は全員が「ほぼ適切」が多かった、保護者に対して、成績表の送付や欠席、遅刻が多い学生に対する電話による確認を行ったことにより、今年度はさらに解消に進んでいる。しかし、教育内容が伝わっていないことにより、確認を求められた事例もあるため問題発生時だけでなく、保護者と連携を深め、退学防止策に努める必要がある。

(2) 今後の改善方策

学生の問題については、メンタルヘルスの知識を活用し、担任及び責任者を含めた学校全体で問題解決にあたる。、さらに、研修を検討し様々な学生に対応できる能力を向上させる。

保護者との連携については、昨年に引き続き問題が発生した場合でなく、入学直後、就職活動開始時、進級直後に担任により連絡や説明会を実施し学校との信頼関係を深めていく。また、電話連絡が困難な場合は、メール機能による連絡相談を行っていくが、学校行事等の定期連絡を入れることによりメールの利用率を高めていく。

日常的な健康管理については、医療機関による健康診断の実施とともに学生手帳を活用し自己管理能力により、規則正しい生活習慣を身に付ける必要性を啓蒙する。

(3) 特記事項

クラス担任制度を採用し、学習相談、進路相談、就職相談が行われている。特に就職指導においてはクラス担任に留まらず全職員協力の元、企業研究、履歴書・自己PR・志望動機の作成、面接指導に至る指導体制を構築している。また、就職サポート室の担当者が就職ガイダンスや模擬面接の実施等、具体的なサポートを行っている

経済的支援として、学費の一部を減免する特別奨学生制度や低利による教育資金融資制度が利用でき、学費納入方法としては従来の一括納入に加えて毎月分割納入できる制度がある。また、来年度より一人暮らしを希望する学生やUターン就職を希望する学生を支援する制度を開始する予定であり、地元での就職を応援し活性化に繋がるものと期待している。

健康管理については、学業に支障が出ないように規則正しい日常生活の啓蒙を行うとともに、医療機関と提携して健康診断を毎年実施している。

課外活動については、菅平又は富士宮で実施される研修旅行、遠足、スポーツフェスティバル、卒業研修旅行を行っている。

学生の生活習慣支援については、遅刻日数や遅刻日数が規定に達した際に面談が実施されている。また、状況に改善がみられない場合には、直ちに保護者と連絡し、家庭での状況や学園生活面の意見交換を行い、学生の現状把握に努めている。

卒業後も継続してスキルアップや資格試験をバックアップできるように、附帯教育である社会人講座の支援を行っている。

学費分納制度については、徐々に利用者が増加し、経済的事由による退学者防止に効果を上げている。

高等学校教員、高校在学学生に対し学園の附帯教育講座による支援を行っている。また、各種検定試験前においては試験対策講座や高等学校の要望により高校内講座も実施し、ビジネスマナー教育のニーズが高まってきているため高等学校教員、高校在学学生、中学在学学生に対する講座も実施している。また、高等学校との連携協定が結ばれキャリア教育及び職業教育の支援を実施している。次年度以降も高専連携を拡大に努めたい。